

総 括

1 県内の地域UD活動の現状

(1) 活動状況の概況

活動の状況について、まだまだ不活発だと考えられる。

活動している人の高齢化の問題や人員不足、資金不足等が不活発の大きな要因であると推測される。また、仕事を持ちながら地域でのUD活動に取り組んでいるため、時間的制約があるほか、主体となって活動に取り組めるリーダーがいないことも一つの要因であると言える。

さらに、事務局体制が整っていないために、活発的な活動を展開できていない団体が見られた。逆に、事務局を行政側に置いている団体は体制が整っており、活動が確実におこなわれている印象を受けた。よって事務局体制は県（振興局含む）や市町村をはじめとする行政側が主導した方が良いだろう。活動に慣れ、運営がきちんとできると事務局担当である行政側が判断した際に、独立した方が良いと考える。

(2) 地域社会に与えている影響

今後、高齢化社会とともに身体に何らかの障がいや病気を抱える人も増えてくると推測される。地域住民が安心して生活を送るために、まずは自分たちの町を足元から見えていく必要がある。

そのきっかけとして、公共的施設でのバリア点検をはじめ、小中学校での講演やキャンプハンディ体験の授業で活動している団体もある。また、車椅子マーク駐車場の適正利用を促進するためのチラシ配りや他市町村への視察研修をおこなっている団体も見られる。これらの取り組みは地域社会に対して広く還元していると考えられる。地域住民が「UD」という言葉とその意味について理解し、自分たちにも何かできることはないだろうかという考えを持つきっかけとなる場ともなりうる。

つまり、このような活動ができるだけ多くの人が利用しやすい施設づくり、思いやりの心を持つ将来の担い手づくりへとつながっていると考えられる。

(3) 地域UD活動の継続の必要性

継続の必要性は大いにある。

例えば、これから建設する予定のある公共的施設についてはUDに配慮した建物を作っていただくことを前提に、行政側には積極的に地域で活動しているUD団体へバリア点検に参加していただけるよう協力を仰ぐべきだと考える。なかには、活動のきっかけがなかなか見つからず、おこないたくてもできていない状況の住民もいるようだ。

そういった住民を掘り起こし、今後いかにして地域での活動へ巻き込んでいくのかを考えていかなければならない。一人でも多くの住民がUD活動に対して興味や関心を示し、団体の一員として地域のUD活動を担う人材になっていくことを期待する。そのため、バリア点検活動や地域に対する呼びかけ活動等、地域での継続的な取り組みが必要だろう。

2 県内の地域UD活動の見通し

今後、地域で活動している人がいわば“孤立”してしまうケースも想定される。そこで、活動している人と人、さらに人と団体を結びつけて更なる活動の発展へとつなげていけるよう取り組んでいかなければならない。

また、より多くの地域住民に対して「UD」が生活と身近なものであると認識してもらうための工夫も必要だ。UD活動に興味・関心を持つには、UDフードといった食の分野や使いやすい食器といった工芸の分野、着脱しやすい衣服といったファッションの分野等、様々な分野からUDへリンクさせ、まずはUDにふれる部分から入っていくのも良いだろう。将来の活動の担い手育成および長期的な目標として、子どもの頃からUDにふれる時間を設け、興味・関心を持ってもらえるような講座とその仕組みが必要だろう。

3 地域UD活動に求められる支援

地域UD活動に対して、行政や地域社会からはUDに関する最新の情報提供が必要だと考える。UDに関する活動をしていても、最新の制度に対しては情報が疎い団体も見られる。すべての団体に対して、より積極的な情報提供をおこなうことで、次は団体が地域住民に対して活動の幅を広めていくことも期待できる。

また、一つのイベントを企画から開催までおこなうノウハウを伝えることも必要だと考える。例えば、団体自らがUD普及のために「キャップハンディ体験講座」や「UD出前講座」等のイベントを考え、地域に売り込んでいこうと考えていても、イベントを運営するノウハウがなければなかなか開催が難しい。そこで、準備品や開催時間の目安等、イベントを運営するに当たってのノウハウについて学ぶ研修会やマニュアル本のような教材が必要になってくるだろう。

4 いわてユニバーサルデザインセンターとしての

地域UD活動への関わり方について

住民だけの活動や、行政だけの活動には必ず限界がある。そこで、両者の間にあるといったNPO団体としての利点を活かした活動をおこなっていく必要があることを再認識しなければならない。

人員不足や資金不足等の事情から活動ができていない団体も見られるため、その団体のニーズに対する相談援助、人員派遣や講師紹介のほか、UD関連グッズ(文房具・玩具・日用品・パネル等)の貸出といった活動協力等をおこなうサポート体制を整える必要がある。また、情報交換や団体間での交流を通じて、互いにUD活動の効果をより高め合っていけるような環境づくりが当会には必要だと考えられる。

今年度の活動を振り返り、県内のUD活動団体の取組みが当会とともに更なる発展を遂げ、地域に良い刺激を与えられるよう、次年度以降取り組んでいきたい。